

香村 眞徳：藤山虎也先生のご逝去を悼む

Shintoku KAMURA: Toraya FUJIYAMA (1917-2000) in memorium



広島大学・琉球大学名誉教授藤山虎也先生は、平成12年6月20日に肺炎のため、沖縄県那覇市においてご逝去された。享年84歳であった。ゴールデンウークの頃に気分が悪いとの事で、入院し検査中であったとのことである。入院中は至極お元気で、ビールも嗜まれていたとのこと。ただあ然とするばかりである。

先生は大正6年3月19日に東京都に生まれ、波乱万丈の道を歩まれた。昭和16年12月東京帝国大学水産学科を卒業後、副手を委託されるや、直ちに現兵役として歩兵連隊補充隊に入営、昭和20年8月に陸軍中尉に任官除隊、昭和21年5月に復員後、同年6月母校の農学部副手に嘱託された。昭和23年11月に文部教官(東京大学)に任命され、農学部附属水産実験所に勤務された。昭和26年4月に広島大学水畜産学部助教授に昇任した。昭和36年3月東京大学から農学博士の学位を授与され、昭和38年4月広島大学水畜産学部教授に昇任された。同大学では評議員(6期)、水畜産学部附属実験長(2期)を務め、その間同大学大学院農学研究科の創設に尽力された。昭和47年から57年までの4年間(2期)、水畜産学部長の要職に就くなど指導的

役割を果たされた。それらの顕著な功績によって昭和52年4月に広島大学名誉教授の称号が授与された。

沖縄県が日本に復帰した年の昭和52年、琉球大学理工学部創設されたばかりの海洋学科の基礎づくりのために、先生の広島大学での研究・教育における豊富な経験が高く評価され、同年4月に停年を待たずに琉球大学教授に迎えられた。先生は常に率先実行というエネルギッシュな行動の持ち主で、学科主任、評議員、大学改革委員などを務めるなど、幅広い分野で、また海洋学科の基礎づくりに貢献された。昭和57年3月に停年退職、琉球大学における顕著な功績により同年5月に、琉球大学名誉教授の称号を授与された。退官後も琉球大学の非常勤講師として、平成4年までの10年間学生の教育に携わってこられた。

先生は、昭和61年4月に開学した沖縄県立芸術大学の教授に迎えられ、同大学付属図書・芸術資料館長を務めるなど同大学の教育・運営に貢献された。先生は教育の一つとして毎年夏(1泊2日)には、同大学の教官・学生を伴い琉球大学熱帯生物圏研究所瀬底実験場(旧学部附属実験所・熱帯海洋学センター)を訪れ、

海生動物をスケッチさせておられたのが深く印象に残っている。「生物のもつ造形美を知ってもらいたい」と。美術専攻の学生らにも生物のもつ素晴らしさを共有させたい気持ちが強かったようである。

平成3年3月に沖縄県芸術大学を退官された後、沖縄県の「自然環境の保全に関する指針策定委員会」で先生とは度々同席し拝顔する機会があった。余りにも改変される沖縄の自然に深く胸を痛めておられた先生であった。「自然環境の保全に関する指針」(沖縄島編)、指針(八重山編)と続き、沖縄県自然環境保全審議会で最終的な審議を経て、沖縄県議会でまだ承認されるまでに至っていない最後の指針(宮古・沖縄島編)、それを見ぬまま永遠の眠りにつかれたことは、至極残念でならない。それが先生との最後の仕事になろうとは夢にも思わなかった。

先生の研究は、緑藻で淡水に生育し、分類学上特異なカワノリの生殖様式と生活史の探究に始まった。その一連の研究論文は、学位論文として集大成された。その後、アサクサノリについて養殖技術向上のための研究に、さらにノリの癌腫瘍の細胞化学的研究に歩を進め、DNA核酸との関連にまで及び、その原因として海水汚染があることを突き止めた。藻類と海洋汚染との関わりを探求する先駆的な研究として、社会的な問題となっている赤潮生物の研究にも手を休めることはなかった。それは先生が環境汚染問題を真剣に考えておられた結果である。さらに研究は、塩田における海水取水管、海水の淡水化に使われるイオン交換膜、及び火力発電所の採水・排水管に付着する各種微小藻類にまで及んでいる。また、研究分野を広げ、ギボシムシからのハロゲン化合物の抽出と構造決定、イルカ類の体内各部位に検出された有機塩素化合物や重金属などの生体濃縮過程などに成果を挙げられた。

このように海藻類の基本的研究から出発し、海洋環境の諸条件の関連性を究明するという展開に至る豊富な実績と経験が高く評価され、日本水産学会理事(昭和32年)、日本塩学会評議員(昭和32年)、同副会長(昭和47年)の要職に選出された。また文部省科学研究費6件の研究代表者として、主として海洋環境問題の学術的研究の推進に当たられた。

社会的な活動においても、広島・琉球大学における研究・教育そして要職と驚異的な多忙の中、日本水産資源保護協会からの委託による瀬戸内海を中心に、九州・四国などの水産資源と火力発電所・原子力発電所・各種臨海工事等との関連問題に関する各種調査委員会の委員長・委員として活躍した(昭和45年～56年ま

での7件)。同様の委託は、南西海区水産研究所(昭和43年)、宿毛市(昭和50年)、ほか2件と引き続き、最近では日本道路公団による「東京湾横断道路漁業検討会委員」(昭和63年)を委嘱されている。沖縄においても、沖縄開発庁からの委託により、海洋環境に関する調査委員会の委員長・委員を務めた(昭和59年から昭和62年まで9件)。沖縄県委託の「赤土流出による漁業の汚染状況調査委員会」における委員長としての役割も特記される。全国的立場に立脚した通商産業省の「工業立地及び工業水質審議委員会専門委員会委員」(昭和59年)としても活躍された。

最後に先生の研究業績を紹介し、沖縄をこよなく愛しておられた先生を偲び、心からご冥福をお祈りする。

主要業績目録

(論文)

カワノリの有性生殖と発生について. 植物学雑誌 82: (1949)

カワノリの無性生殖及びその生活史. 植物学雑誌 82: (1949)

アサクサノリの生活史について, 特に秋に立て込んだヒビに最初につく胞子の性質. 日本水産学会誌 17: (1954)

On the life-history of *Prasiola japonica* Yatabe. J. Fac. Anim. Husb. Hiroshima Univ. 1: (1955)

塩田に棲息する藻類の研究-III. 日本塩学会誌 9: (1956)

アサクサノリ胞子の付着と海況について-II. 日本水産学会誌 22: (1956)

流下式塩田に生育する藻類の生態と駆除に関する研究. 日本塩学会誌 10: (1956)

塩田に棲息する藻類の研究-II. 日本塩学会誌 10: (1956)

ノリの癌腫病. 水産増殖 4: (1957)

アサクサノリの癌腫病の細胞化学的研究. 水産学集成 (東京大学出版会, 千川・雨宮博士記念論文集). (1957)

塩田に棲息する有害植物に関する研究. 日本塩学会誌 11: (1957)

海藻類の核酸に関する研究、特にアサクサノリの癌腫病におけるDNA含量の特異性について. 日本水産学会 23: (1957)

アサクサノリの培養. 水産増殖 9: (1961)

海棲付着生物. 日本海水学会誌 19: (1965)

交雑種の確認法-藻類. 水産増殖 13: (1966)

種の保存法-藻類. 水産増殖 13: (1966)

赤潮鞭毛藻に関する研究-I. 広島水畜産学部紀要 7: (1968)

- 貝類幼生の餌料としての *Phaemonas ovalis* Nygarröd に
ついて. 日本水産学会誌 37: (1971)
- 海産ヒビミドロ属の生活史に関する研究-I. *Ulothrix
implexa* Kuetzing Prox の無性生殖について. 水産大
学校研究報告 23: (1975)
- 瀬戸内海産ホンダワラ科藻類の分布について. 広島大
学水畜産学部紀要 14: (1975)
- 福山地先に見出された渦鞭毛藻類の休眠胞子につい
て. 広島大学水畜産学部紀要 14: (1975)
- ヒビミドロ属の生活史に関する研究-II. *Ulothrix
implexa* Kuetzing Prox の有性生殖と生活史につい
て. 水産大学研究報告 24: (1976)
- 三種の *Ceratium* の生態に関する研究. 広島大学水畜産
学部紀要 15: (1976)
- Content and uptake in benthic algae, *Enteromorpha* and
Porphyra. Measurement and variation of trace metal
content in *Porphyra* grown in natural environment. J.
Fac. Fish. Husb. Hiroshima Univ. 16: (1977)
- Content and uptake in benthic algae, *Enteromorpha* and
Porphyra. II. Studies on the algae cultured in sea water
supplemented with various metals. J. Fac. Fish. Husb.
Hiroshima Univ. : (1977)
- 渦鞭毛藻 *Gymnodinium neisonii* Martin (SF type) の栄養
要求. 日本プランクトン学会報 24: (1977)
- 渦鞭毛藻の形態観察における倒立顕微鏡の利用につい
て扁平な形態をした2種の渦鞭毛藻類の観察. 広島
大学水畜産学部紀要 16: (1977)
- Studies on the life history of *Ulothrix*-III On the life history
of *Ulothrix acrovhiza* Kormmann. J. Shimonoseki Univ.
Fish. 26: (1978)
- A new method for separation and spectrophotometric
determination phosphate ion by the liquid-liquid
extracion with benzophenone at an elevated temperature.
Fresenius Zeitschrift Analytische Chemie. 293: (1978)
- 製塩における赤潮対策に関する研究-I. 赤穂市海域お
環境と製塩用海水中のプランクトンについて. 日本
海水学会誌 33: (1979)
- 製塩における赤潮対策に関する研究-II. 海水濾過工
程における細菌の挙動と, イオン交換膜付着物の
化学的性状. 日本海水学会誌 33: (1979)
- せんごう塩中の微生物に関する衛生学的研究. 日本海
水学会誌 33: (1979)
- Halogenated phenol and indole constituents of the acorn
worms. Comp. Biochem. Physiol. (1980)
- Ulothrix acrorhiza* Kormmann のアキネート形成につい
て. 水産大学研究報告 28: (1981)
- 海水科学における海洋生物の挙動. 日本海水学会 34:
(1981)
- Distribution and total burdens of chrrianted hydrocarons in
bodies of striped dolphins (*Stenella coeruleoalba*).
Agric. Biol. Chem. 45: (1981)
- (著書)
- 藻類実験法. 南江堂出版. (1965) (共著)
- 広島 naturally. 六月社出版. (1966) (共著)
- 瀬戸内海の油汚染. 大日本図書出版. (1976) (共著)